

## 農業次世代人材投資事業 全国型教育機関としての就農サポート体制

教育機関名：学校法人八紘学園 北海道農業専門学校

### (1) 就農に向けた相談体制

1) 相談窓口：教学部にて投資金の説明および、申請書類作成支援の対応をする。  
また、研修期間中の実技・講義の指導・支援は各学科の担当者にて対応する。(1 学年では担任が対応し、2 年生では学科科長が対応をする)

### 2) 相談対応方法等

○教務部：主に投資金の申請書類の作成支援や研修の評価を分析し、指導方針を各学科科長や担任に報告する。就職先の紹介では、雇用就農要件に合致する農業法人等を事前に調査し、就職活動準備を学生と進めている。

また、農地・資金の確保については、基本的に後継者の場合、保護者の紹介を経て各都道府県の農政課や農業委員会へ投資金事業を説明し、学校と保護者及び農業委員会等と連携して農地確保を支援する。

○学科科長・担任：本校の学習指導要項に基づき 4 月～11 月上旬まで農場畜舎管理実習を研修とし、研修者の技術の向上を図る。

また、学科指導員のネットワークにより、校外研修及び、資格取得の指導、就職先の情報提供を支援している。11 月中旬から冬期講義となり、夏季期間の実習に直結した講義及び、実験実習を 3 月の卒業式まで行い、成績不振にならないように事前に学習指導に努める。

(2) 就農・定着に向けたサポート内容等

1) 就農に向けたサポート（就農先の紹介・マッチング等）

進路選択のミスマッチを防ぐことを目的として学校行事である「農業のしごと相談会」を毎年 6 月下旬に開催している。また、求人は学生が随時閲覧できるようにし、学生の職業意識の早期確立を通して自己理解力やキャリアプランニング能力の向上を図っている。

また、インターンシップを実施することで個々の職業意識を高めるよう指導し、「新・農業人フェア」への参加も促している。

冬期の講義では経営者として必要な農業簿記演習・農業簿記の授業を受けるよう指導している。近年は希望した就職先が考えていた仕事内容と一致しない事がないように授業の中で、事前研修も実施している。

## 2) 就農後の定着に向けたサポート（地域関係者との連携・フォローアップ）

卒業生からアンケートを取り、学校に対する評価を分析するほか、職員の研修先に投資資金を受給した卒業生が就農している場合は、企業訪問を兼ねて状況を確認していく。また、企業から本校へ訪問依頼もあるのでその際には、就農状況も確認する。

### ○本校が本年度取り組む予定のサポート

道内のサポート：高校訪問で各市町村に出張する機会があり、その際に近隣の卒業生の雇用先を訪問する。本人及び、雇用先の上司にあたる方への聞き取りを行い、継続した就農活動に向けて話し合っていく。

本校に定期的に来校する企業において投資資金を受けた卒業生がいる場合は、一緒に本校を訪問してもらい、就農状況を聞き取りしていく。

道外についてはリモートなどを使用して一度、就農状況を話す機会を設ける。

また、道外出張の際に近隣による場合は、道内同様に企業・本人から就農状況を確認していく。

## 3) その他サポート

入学時のガイダンスの中で、事業について説明会を開き、希望者に対して6月中旬より詳しい内容の説明会を開いている。

また、申請は年2回の受付期間のうち、本校は2回目（10月末締め切り）に申請を提出している。入学から半年以上が経過すると、当初希望していた分野（本校では、野菜科・果樹科・花き科・耕作機械科・日高畜産科・札幌乳牛科）から変更する学生が多く、将来を見据える時間が必要なため、保護者とも考える時間を十分に設けるため、2回目の申請を指導・支援している。

受給者に対しては就農を見据えて個別に進路指導を行い、2年次専攻グループの選定時や就農先の検討等、担任の指導者含め本人と話をしている。